

令和6年度豊かなむらづくり全国表彰事業（近畿ブロック）

農林水産大臣賞

いちななさんはち さと かい きょうとふうじたわらちょう
1738 やんたん里づくり会（京都府宇治田原町）



【オリジナルブランド茶「やんたん」】



【飲食部会のみなさんと茶汁のセット】



【茶つみ体験後の「茶畑カフェ」】

【概要】

1 むらづくりの動機・背景

宇治田原町湯屋谷は、緑茶の製法を完成させ全国に広めた永谷宗円翁を輩出した、日本緑茶発祥の地である。

老朽化が目立った宗円生家の改修を契機に、このままでは地域の賑わいが生まれないという危機感から、地域の魅力を再確認して誇りを感じる地域づくりを目指し、ワークショップを開いて議論を重ね、官民共同で「やんたん未来プラン」を策定。湯屋谷の将来ビジョンが地域住民に共有された。

その実行組織として、「1738 やんたん里づくり会」（以下、里づくり会という。）を平成30年5月に設立した。

2 むらづくりの内容

里づくり会は、町の観光拠点施設「宗円交遊庵やんたん」を活動拠点とし、会員は34名、飲食部会、体験部会、茶農家部会など6つの部会で構成されており、湯屋谷区、永谷宗円顕彰会、大学など他組織と幅広く連携している。

里づくり会は「やんたん未来プラン」の実現に向け、

- （1）集団茶園の再整備による生産性の向上と後継者の確保に伴う茶産地の継続・発展
 - （2）荒茶の直接仕入れによるオリジナル茶や放棄茶園の茶の実を利用した美容オイルなど、茶関連商品の開発、販売
 - （3）女性活躍の場である「あばんずキッチン」では、郷土料理の「茶汁」を現代風にアレンジして提供するなど、食文化の継承
 - （4）茶摘み体験や茶畑カフェ等の体験を通じたお茶の魅力の発信
- などに取り組んでいる。

これにより、お茶の歴史や伝統・文化の理解が地域内外に浸透し関係人口の増加につながっており、また、消費者のダイレクトな反応が得られることで営農意欲が向上するなど、地域活性化に大きく寄与している。